



第2章

開通による 生活の変化

- 公共交通の充実
- 生活環境の変化
- 安全・安心の確保

公共交通の充実

1 バス路線の新設

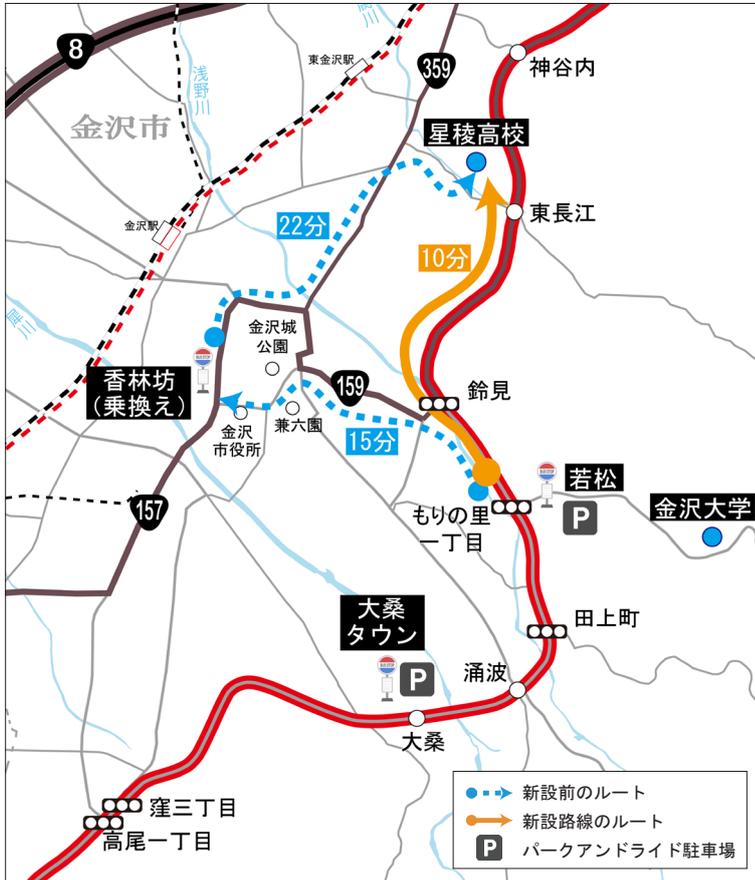
バス路線の拡大で生活環境が向上

■ 山側環状の全線開通以降に、IRいしかわ鉄道東金沢駅（旧 JR 東金沢駅）と金沢大学を結ぶ新たなバス路線が設けられました。

■ バス路線の新設により、若松から星稜高校への路線バスによる所要時間が大幅に短縮（新設前：37分→新設後：10分）し、学生の通学や地域の方々の移動手段としての役割を果たしています。

■ 同様に、東金沢から金沢大学への運行時間も短縮が図られており、新設前の金沢市内中心部を通過する経路に比べて、新設路線では15分（45分→30分）の時間短縮が図られています。

◆ 若松から星稜高校へのバス路線及びパークアンドライド駐車場



※北陸鉄道の路線バス時刻表より運行時刻を算出



▲新設区間を運行する路線バス



▲駐車場に近接したバス停



▲パークアンドライド駐車場の利用案内

※写真：金沢河川国道事務所

2 パークアンドバスライドの実施

市内中心部への交通を抑制

■ 山側環状沿道では、商業施設の協力のもと、平日の通勤・通学の移動を対象にパークアンドバスライドを実施しています。（現在、山側環状沿道で2か所70台）

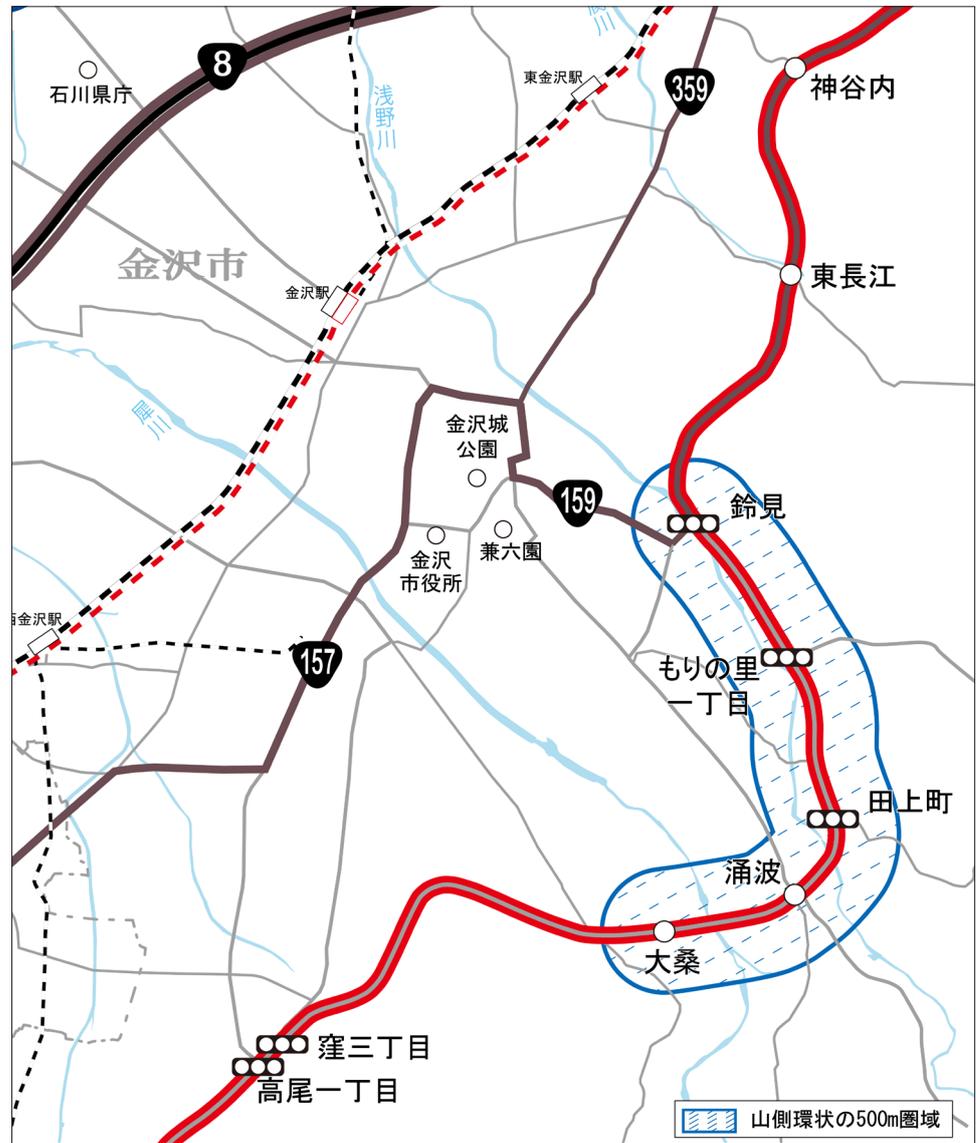
■ 商業施設や公共施設の指定駐車場にマイカーを駐車し、公共交通（バス）で通勤・通学してもらうことで、金沢市内中心部へ集中する交通の抑制を図っています。

生活環境の変化

1 良好な住環境における新築住宅の増加

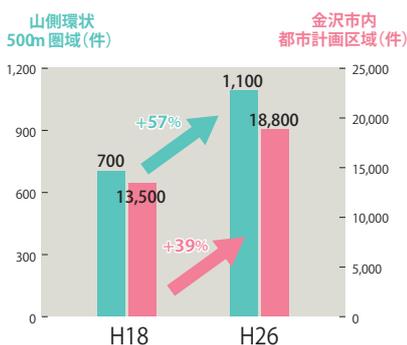
人口増加により、賑わいのあるまちに

■ 全線開通前後に土地区画整理事業が実施された鈴見～大桑間の500m圏域では、良好な住環境の創出により新築住宅件数が57%、人口が8%、世帯数が11%増加しており、金沢市内の都市計画区域と比べて、増加割合が高くなっています。

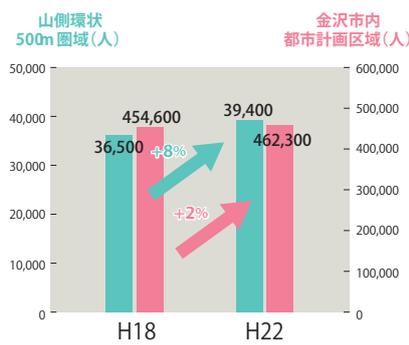


▲鈴見～大桑間における山側環状500m圏域と新築住宅、人口・世帯数の変化

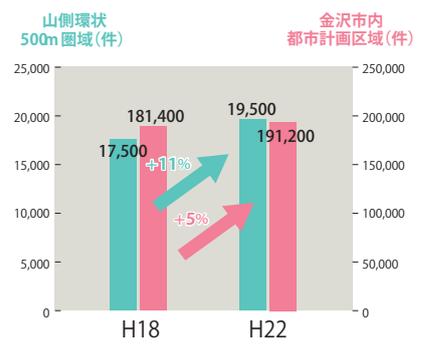
◆ 新築住宅件数の推移



◆ 人口の推移



◆ 世帯数の推移



※金沢市資料

生活環境の変化

2 商業施設の充実

便利で暮らしやすいまちへ

■ 山側環状の沿道には、土地区画整理事業にあわせて様々な商業施設が出店し、地域の賑わいが創出され、周辺地域の生活利便性が向上しています。

■ 山側環状の全線開通により、もりの里・田上地区や新たに商業施設が整備された大桑地区へのアクセス性が大幅に向上しました。

■ 鈴見～大桑間では、山側環状の500m圏域において商業系土地利用の割合が67%増加しています。

第2章

開通による生活の変化



▲もりの里地区の商業施設

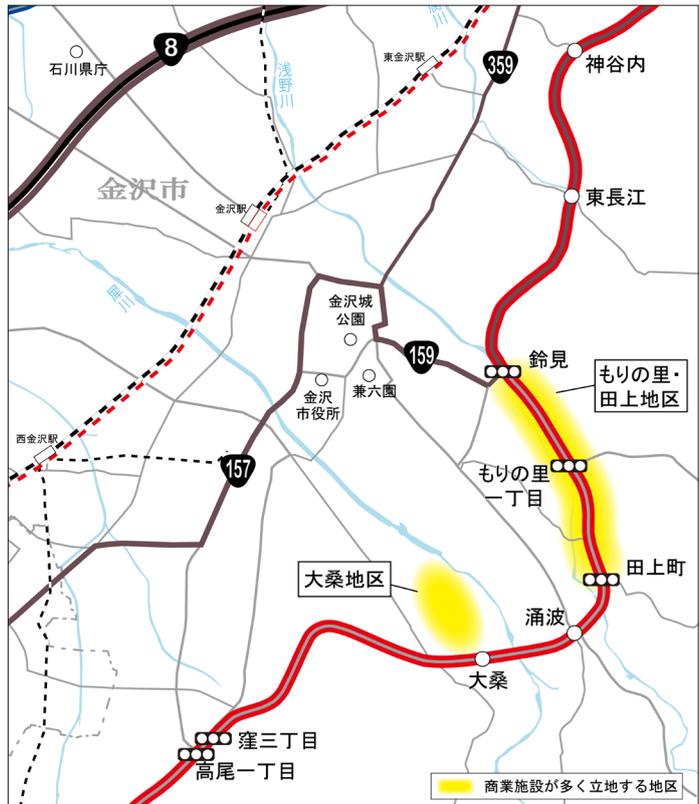


▲田上地区の商業施設



▲大桑地区の商業施設

※写真：金沢河川国道事務所



▲山側環状沿道の主な商業地区

◆ 鈴見～大桑間における山側環状500m圏域内の商業系土地利用 (ha)



※金沢市資料

安全・安心の確保

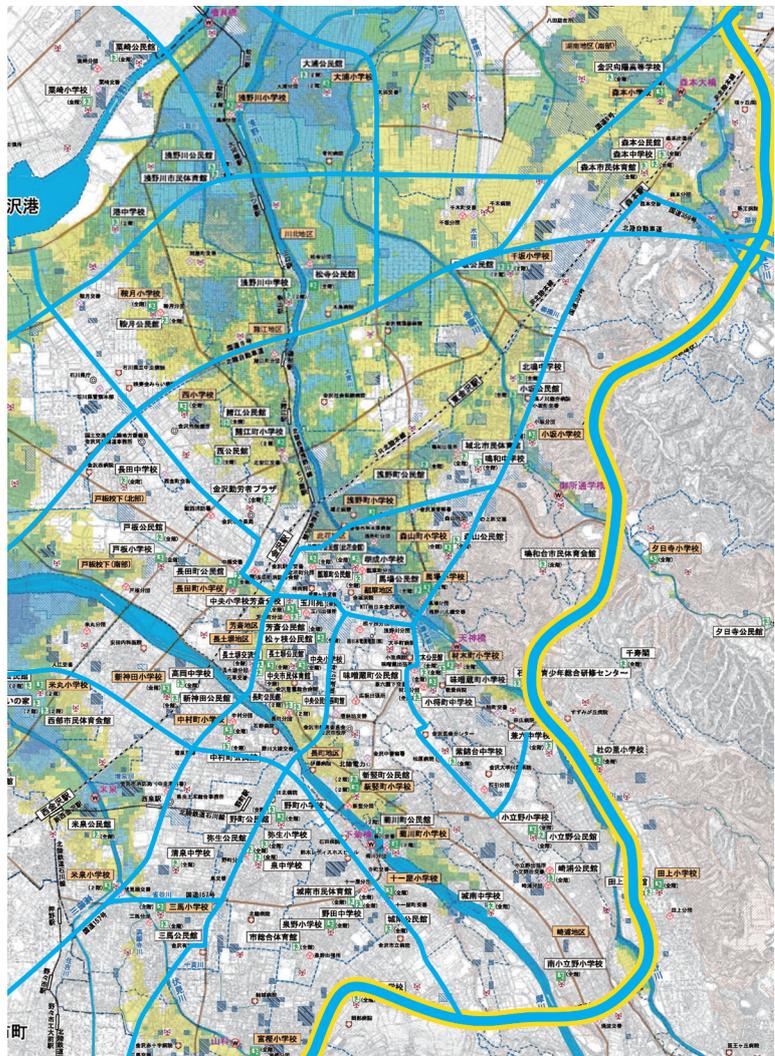
1 災害時の交通確保

災害時の活動を支援

- 山側環状は、石川県が定める第一次緊急輸送道路※に位置づけられており、災害時の避難や支援活動に大きな役割を担っています。
- 陸上自衛隊金沢駐屯地に近く、災害派遣時には自衛隊員の被災地へのアクセスを支援します。
- 近年、多発するゲリラ豪雨による河川氾濫が起こった場合にも、その影響を受けることなく、緊急輸送道路としての機能を発揮することが期待されています。

※ 緊急輸送道路

災害直後から、避難、救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線。



凡例	
	第一次緊急輸送道路
	山側環状
※着色部が浸水想定エリア	

▲河川の氾濫による浸水想定エリア(金沢市域)

※金沢市洪水避難地図に加算

2 金沢大学附属病院へのアクセス向上

医療との連携で安心して暮らせるまちへ

- 金沢大学附属病院は、重篤患者の受け入れが可能な数少ない第三次医療施設です。
- 山側環状の整備により、金沢市北部地区や南部地区からの救急搬送の際には、搬送経路の選択肢が増え、速やかな救急救助活動の支援が期待されています。



▲金沢大学附属病院

※写真：金沢河川国道事務所

